

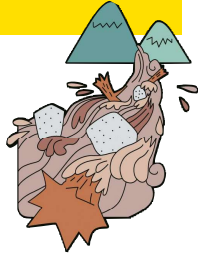
土砂災害

土砂災害は、降雨時期に多く発生し、被災地域が比較的狭い範囲に限られる割に、被災者の死傷率が高く、人家などに壊滅的な被害を与えることの多い災害です。平時より土砂災害の前兆現象に注意をはらい、地域ぐるみの災害対応が適切に行えることができるようにしておくことが求められます。

● 土砂災害の種類 ●

土石流

長雨や集中豪雨などの大量の雨水によって山や川底の石や土砂が一気に押し流され、一瞬にして家屋や田畑等を破壊します。



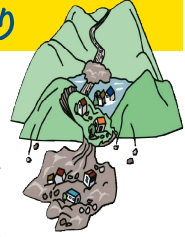
がけ崩れ

急傾斜地の斜面が、地震や大雨等の影響により、一気に崩れ落ちることを言います。

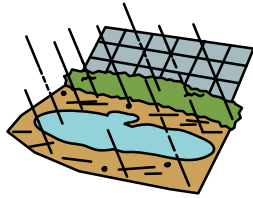


地すべり

地下水が粘土板のような地面にしみこむことにより、地面がそっくり斜面の下方に動き出すことを言います。



● 主な前兆現象 ●



- 雨が降り続けているにも関わらず、川の水が急に減り始める。
- 川の水が急に濁ったり、流木が流れ始める。



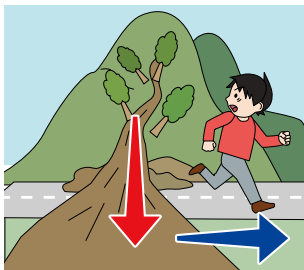
- 小石がバラバラと落ちてくる。
- 斜面から水が湧き出す。



- 地面にひび割れができる。
- 地面の一部が陥没したり、隆起したりする。

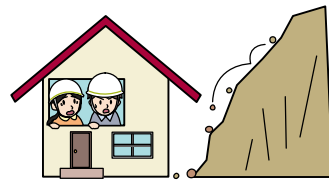
● やむなく土砂災害に遭遇した場合 ●

直角避難



土石流は速度が速いため、流れを背にして逃げると、飲み込まれてしまいます。土砂の流れる方向に対し、直角に逃げるようにしましょう。

屋内での安全確保



屋外への避難が、かえって危険な場合は、家の中のより安全な場所（自宅の2階以上の、崖の反対側など）で、安全確保をしましょう。

土砂災害警戒区域 (イエローゾーン)

- 土砂災害の恐れがある区域。
- 命を守るため、警戒避難体制^{*}の整備が行われる。

^{*}「警戒避難体制」とは、土砂災害警戒区域内にある、要配慮者等が利用する施設が定める避難体制のこと。

土砂災害特別警戒区域 (レッドゾーン)

- 土砂災害警戒区域(イエローゾーン)と同様、土砂災害の恐れがある区域であり、建物の損壊や、命にかかわる危険性が特に高い地域。
- 建物を建てる時など、許可を受ける必要がある。

ハザードマップ
P24~
P26へ

自分か取るべき
行動を知る

風水害

土砂災害

地震

津波

さらなる
減災に向けて

ハザードマップ

地震

「地震大国」である日本では、想定を超える規模の地震はいつでもどこでも発生しうると考えられており、橿形山脈断層帯付近では、将来、マグニチュード6.8程度の地震が発生することが想定されています。そこで、「地震は必ず起きるもの」ととらえ、いつ起きても安全に避難できるようにしておくことが重要です。

ハザードマップ
P28~
P34へ

● 震度別の想定される被害 ●

震度4

- 歩行中でも揺れを感じる。
- 眠っていても目が覚める。
- 不安定な置物が倒れる。



震度6弱

- 立っていることが難しい。
- 家具の多くが移動し、倒れる。
- 一部の地域で電気・ガス・水道が止まる。



震度5弱

- 家具が動き、食器や本が落ちる。
- 窓ガラスが割れる。
- ガスが安全装置で遮断される。



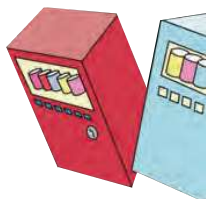
震度6強

- 立ってられない。
- 家具やブロック塀のほとんどが倒れる。
- 広い地域でガス・水道が止まる。



震度5強

- タンスやテレビが倒れる。
- ブロック塀や自動販売機が倒れる。
- 水道管に被害が発生する。



震度7

- 揺れで動けない。
- ほとんどの家具が大きく移動し、飛ぶものがある。
- 大きな地すべりが発生する。



● 家の中を安全にする ●

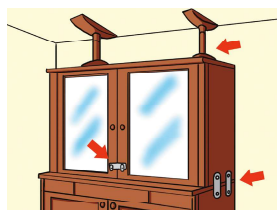
【ガラス飛散対策】

- ガラスに飛散防止フィルムを貼る。
- 枕元にスリッパを置いておく。



【家具等の転倒・落下物対策】

- 固定器具で家具、家電製品を固定する。
- 扉の開閉を防ぐ器具を付ける。
- 家具の中には、下に重い物、上に軽いものを置く。
- 照明器具は、鎖と金具を使って固定する。
- 家具等が転倒する恐れのある場所で寝ない。



● 地震から身を守る行動 ●

【屋内にいる場合】

- 頭を保護し、丈夫な机の下など安全な場所に避難してください。
- あわてて外に飛び出さないでください。
- 避難する際は、ブレーカーを切ってください。



【屋外にいる場合】

- ブロック塀の倒壊などに注意してください。
- 看板や割れたガラスの落下に注意してください。
- 丈夫なビルのそばであれば、ビルの中に避難してください。



自分が取るべき行動を知る

風水害

土砂災害

地震

津波

さらなる減災に向けて

ハザードマップ

津波

胎内市は海岸線を有し、常に津波の危険にさらされているといえます。津波は地震発生後あっという間にやってくる可能性があります。避難は「遠く」より、「高く」を意識し、なるべく高台に避難しましょう。



自分が取るべき行動を知る

風水害

土砂災害

地震

津波

さらなる減災に向けて

ハザードマップ

● 津波の特徴 ●

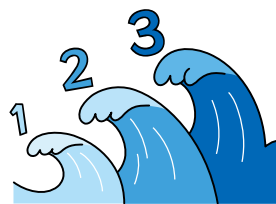
津波の速さはジェット機並み

津波の速さは、海の水深が深いほど速くなり、深海5,000mでは、津波はジェット機並みの時速約770キロの速さで進みます。海岸付近の水深が浅いところでは時速40キロほどです。津波を見てから逃げることはかなり危険です。



2波、3波と繰り返す

津波は2波、3波と繰り返しやってきます。第1波が大丈夫だからといって、安心してはいけません。津波注意報や津波警報が解除されるまでは注意しましょう。



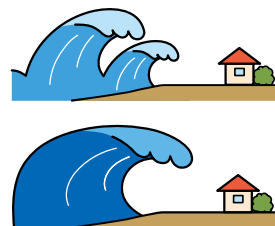
河川の逆流(遡上)

津波は河川を遡上し、何キロメートルも上流に遡上することがあります。遡上した津波が、堤防を越えて河川沿いの地域に被害をもたらすことがあります。



津波の威力は想像以上

津波は海底から海面まですべての海水が巨大なかたまりとなって押し寄せるので、高さは想像を超え、破壊力はすさまじいものとなります。



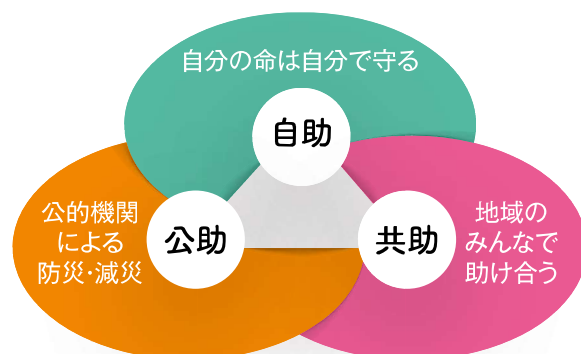
● 避難のポイント ●

| 予報の種類 | 発表される津波の高さ | | 取るべき行動 | 想定される被害 |
|-------|--------------------|------------|---|---|
| | 発表基準 | 巨大地震の場合の発表 | | |
| 大津波警報 | 10m超え 10m 5m | 巨大 | 沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台などの安全な場所に避難してください。津波は繰り返し襲ってくるので、津波警報が解除されるまで安全な場所から離れないでください。 | 木造家屋が全壊・流出し、人は津波による流れに巻き込まれる。 |
| 津波警報 | 3m | 高い | ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう。 | 標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生する。人は津波による流れに巻き込まれる。 |
| 津波注意報 | 1m | なし | 海の中にいる人は、ただちに海から上がって、海岸から離れてください。津波注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近づいたりしないでください。 | 海の中では人は速い流れに巻き込まれる。小型船舶が転覆する。 |

さらなる減災に向けて

防災の3要素「自助」「共助」「公助」

自然災害を人間の力で食い止めることはできませんが、災害による被害は、我々の力で最小限に抑えることが可能です。市や消防署等による支援である「公助」や本誌で紹介してきた自分の命は自分で守る「自助」に加え、地域みんなで助け合う「共助」こそが、災害による被害を少なくするための大きな力となります。



・自分達の地域は自分達で守る・

自治会・集落などの地域活動と防災活動の関係は深く、地域活動の活性化は防災活動の活性化につながり、そして市全体の防災力を向上させます。「自分は地域の一員」、「地域みんなで助け合う」という基本的な考えのもと、自主防災活動などに積極的に参加し、地域全体で連携した「コミュニティ避難」を行うことができる関係を作りましょう。

・自主防災組織の役割・

平常時の活動

防災知識の共有

地域の皆さんで防災に関する正しい情報を共有する。

防災資機材の整備

災害発生時に必要となる防災資機材等を整備し、備蓄品を管理する。

地域内の安全確認

地域の危険箇所や避難経路を確認し、共有する。

防災訓練の実施

避難訓練等の防災訓練を皆さんで実施する。

災害時の活動

情報の収集・伝達

災害に関する正しい情報を収集し、伝達する。

救出・救護活動

負傷者や家屋などの下敷きになった人の救助・救護をする。

初期消火活動

出火防止のための活動や初期消火活動をする。

避難誘導活動

住民を避難所などの安全な場所に誘導する。

・要配慮者・避難行動要支援者を守りましょう・

皆さま一人ひとりが支援者としての心構えを持ち、地域で個別計画を作成し、要配慮者や避難行動要支援者の「逃げ遅れ^{ゼロ}・犠牲者^{ゼロ}」を目指しましょう。

※1「要配慮者」とは、高齢者、障がい者、乳幼児など、配慮を必要とする方のこと。

※2「避難行動要支援者」とは、要配慮者のうち、災害時、避難することが困難であり、支援を必要とする方のこと。